

平成31年度 社会福祉法人ふたば園 事業報告書

平成31年度事業計画に係る概況について〈法人統轄事項〉

(1) 継続事業について<各事業拠点別 事業報告 参照>

(2) 新規事業について

- ・7月に萩市障害者生活支援センターほっとすペーすをからふるから萩市総合福祉センター2階に移転した。

(3) 経営実施状況について

a 職員への任用替え

- ・令和2年4月1日に正規の職員へ任用替えするために希望者による選抜試験を実施し、準職員から10名、特別契約職員から21名、合計31名の職員を正職員へ任用替えすることにした。

b 人材確保について

- ・平成31年度の採用・退職は、以下のとおりである。

採用

区分	正職員	準職員	特別契約職員	パート職員	合計
なないろ			2人	5人	7人
さんみ苑			2人	2人	4人
からふる				3人	3人
グループホーム			2人	2人	4人
みらい				1人	1人
えーる				1人	1人
給食			1人		1人
合計			7人	14人	21人

退職

区分	正職員	準職員	特別契約職員	パート職員	合計
からふる				1人	1人
なないろ			2人	2人	4人
グループホーム				2人	2人
さんみ苑	1人		2人		3人
給食				1人	1人
合計	1人		4人	6人	11人

令和2年3月31日における職員の状況は、以下のとおりである。

職種別職員状況

合計	正職員	準職員	継続雇用職員	特別契約職員	パート職員
209人	38人	13人	6人	57人	95人

(4) 職員研修について

a 法人内部研修

- ・新任研修、交流研修、応急救護研修（6月）、虐待防止研修（8月）、ピアスーパービジョン研修（1月）

b 各種外部研修

- ・県内・県外で開催される各種研修へ参加した。

(5) 役員会の開催状況

理事会

開催数	開催年月日	議題
第1回	令和元年6月7日	平成30年度事業報告・決算認定 有期契約職員就業規則の一部変更 評議員辞任の承認 評議員候補者の推薦 監事候補者の推薦 平成31年度第1回評議員会の開催
第2回	令和元年6月28日	理事長の選任 業務執行理事の選任
第3回	令和元年9月30日	職員就業規則の一部変更 職員給与規定の一部変更 準職員就業規則の一部変更 準職員給与規定の一部変更 有期契約職員就業規則の一部変更 有期契約職員給与規定の一部変更
第4回	令和2年3月17日	平成31年度第1次補正予算案 令和2年度事業計画及び收支予算案 特別職員就業規則 再雇用職員就業規則 再雇用職員給与規定 パート職員就業規則 職員就業規則の全部変更 職員給与規定の全部変更 準職員就業規則の全文変更 有期契約職員就業規則の全部変更 有期契約職員給与規定の全部変更 育児・介護休業等に関する規定の一部変更 平成31年度第2回評議員の開催

評議員会

開催数	開催年月日	議題
第1回	令和元年6月21日	理事長の選任 平成30年度事業報告・決算認定 理事の選任 監事の選任
第2回	令和2年3月31日	平成31年度第1次補正予算案 令和2年度事業計画及び收支予算案

(6) 監査

- 平成30年度決算監査（平成31年5月24日実施）

(7) 会議開催

a 施設長会議

毎月の開催を定例化するとともに必要に応じて随時開催した。法人運営上の基本的課題等について協議するとともに、今後のふたば園のあり方などについても協議を重ねた。

b 管理職務者会議

月1回の定例開催とし、各事業の報告やワーキング会議の報告などを受けて協議を行った。

c サービス品質管理委員会（QC委員会）

月1回の定例開催した。

d プロジェクト会議

「ふたば園まつり実行委員会」を前年度3月より実施月（5月）にかけて開催した。

e その他

「ほほえみ運動会実行委員会」を関係施設と7月より実施月（9月）にかけて開催した。

その他、各事業毎に関係機関との連携・連絡会議に参加した。

(8) 情報提供

法人事業のインターネットを通じて情報発信・公告の拠点として、ホームページを運営

(9) 地域活動

・地域活動・イベントの実施・参加

主催イベントとしては、地域交流を目的とする「第11回ふたば園まつり」を5月18日に開催した。

その他、地域開催イベントへの参画を継続した。

- ・法人が管理する施設設備等の活用推進
からふる内のおもちゃ図書館の地域開放を継続した。

平成31年度 子ども発達支援センターからふる

事業報告

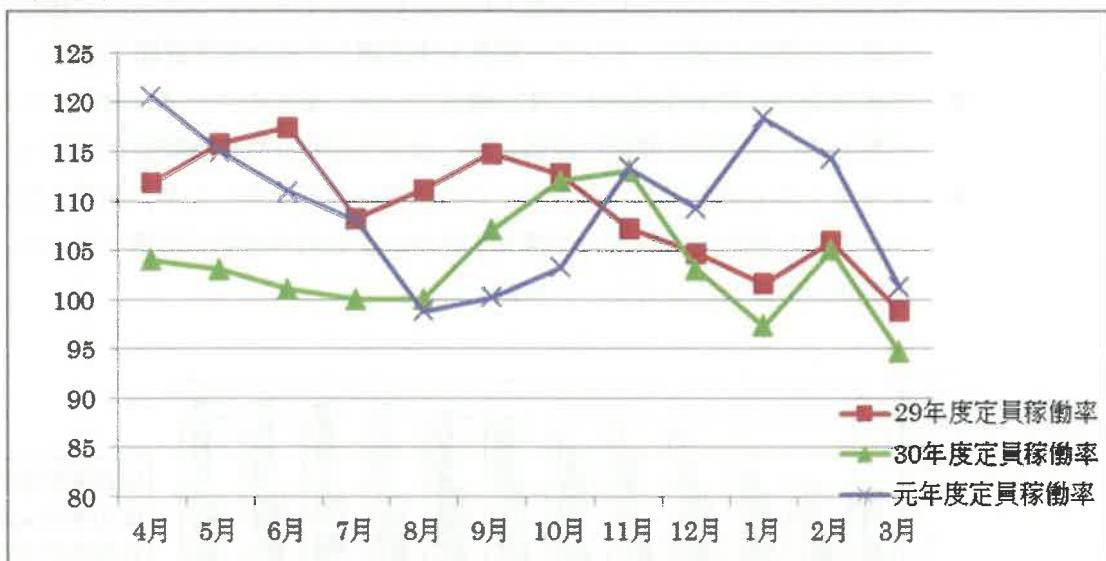
関係機関や地域との連携がより強固になり、併せて気になるお子さんへの早期からの支援の必要性が重要視されてきたこと等で、萩市の子どもの数は減少傾向にあるものの、当センターの児童発達支援事業及び保育所等訪問支援事業については例年並みの利用があった。

現状ではからふるの運営や経営は安定しているが、待機登録についての相談が例年と比較して減少傾向にある等の変化がみられることから、今後はサービスの内容やサービス提供の在り方について更なる検討が必要となってくると思われる。

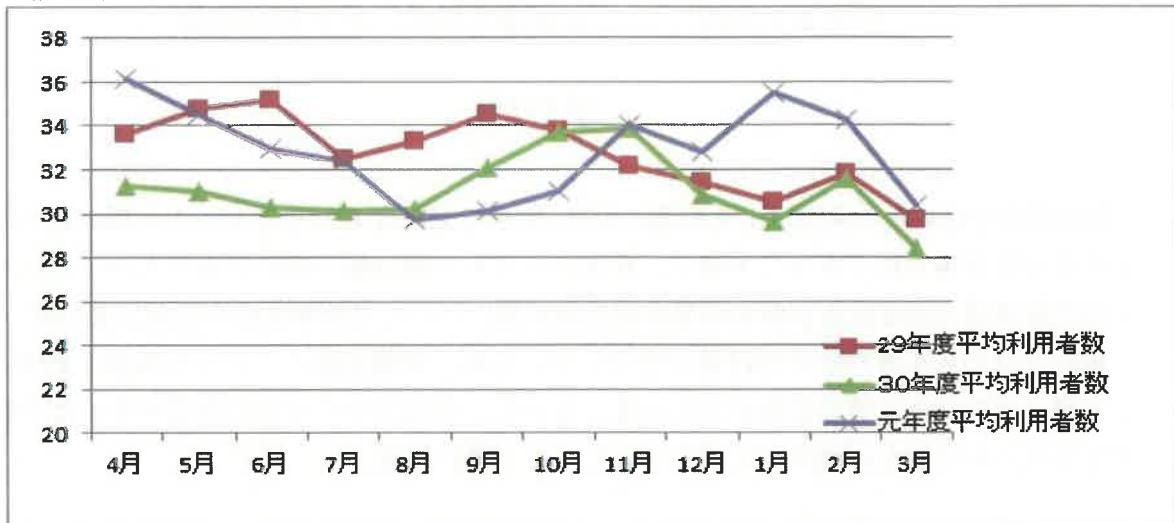
【児童発達支援事業】

- 元年度は、4月時点で定員数30名に対して67名の契約者となり、待機登録を行ってもらう形になった。保育園や幼稚園との併行利用の開始や登園日数の減少に伴い、年度内で待機登録を解消できたのは8名である。
- 利用契約児は増加していると同時に併行利用児も増えてきており、他機関との連携や就学支援など、職員の業務量や事務量が増えている。
- 保護者支援のための延長保育は9名の登録があった。(8:00~8:30、16:30~18:00)可能な場合は、保育園まで送るなどして延長利用人数減を図った。通園バスや早出など延長時間に対応する職員の増加により、会議や業務遂行、事務時間の確保が課題である。
- 125%上限で利用調整をして、本年度の定員稼働率は平均109%で減算を受けることなく、運営が行えた。ただし、幼児期の利用者が対象であることから、体調不良等での欠席や保育園、幼稚園の行事の影響を受けやすい状況にある。

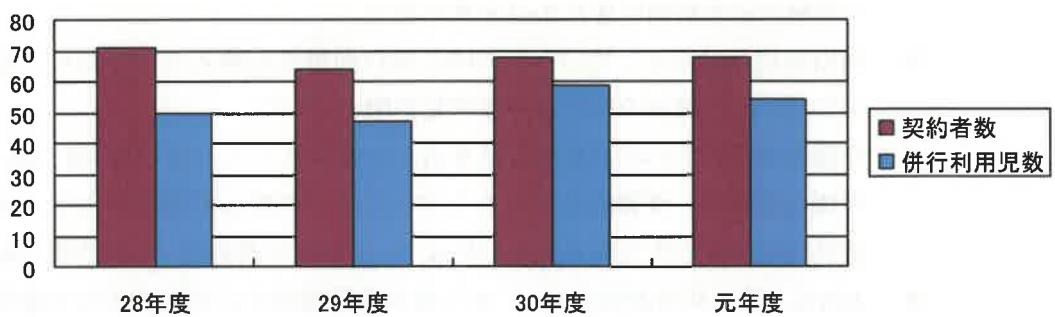
(図1)



(図2)

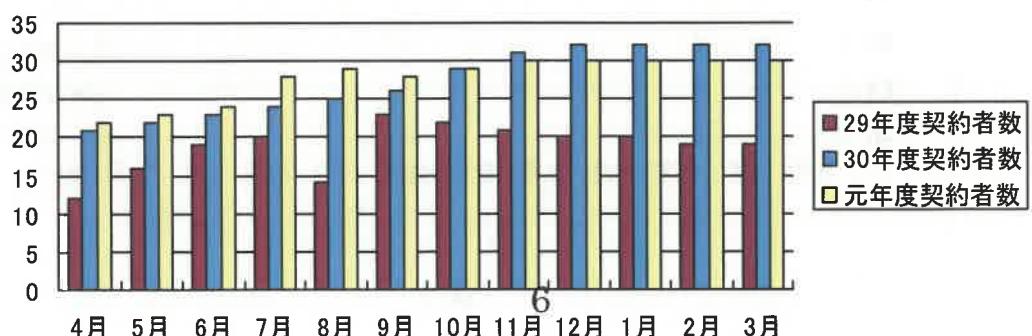


(図3)



【保育所等訪問支援事業】

- 知識や経験のある保育士・児童指導員を配置して訪問療育を行うことで支援の質が高まっている。求められる支援の内容が広がってきていため、今後も支援者としての力量と支援の充実は、センター職員全体を通じて引き続き課題である。
- 年度当初から利用希望が少しずつ増えていき、全てのニーズに対応するには職員の調整が難しく、定期的に個別の評価を行いながら訪問日数の調整等を行なった。
- より多くの方に利用していただくために契約者を増やしたが、訪問支援担当者が余力がないため、訪問先の都合や保護者の都合による利用調整が困難であった。そのため、支援提供ができないくなるケースもあった。



・【委託事業】

- 発達障害児地域支援体制強化事業
 - ①9月、12月に発達障害児に関わる方を対象に、研修会を実施した。
 - ②メンターグループ相談会を5回実施した。内1回は東部地区を対象として弥富交流センターで開催した。
- 在宅障害児療育支援事業
 - ①在宅支援外来療育等指導事業・・・372件実施
 - ②施設支援一般指導事業・・・38件実施

【地域支援・地域貢献】

- 児童発達支援の研修会開催
- 編菓子器、玩具、図書等の貸し出し
- 萩地区療育相談会・萩市及び阿武町5歳児相談会・発達クリニック等への職員派遣
- おもちゃのおうち地域開放（毎週火曜日）
 - *子育て相談、手作りおもちゃ、親子遊びの会を実施。
 - *読み聞かせのボランティアを派遣してもらい読み聞かせを実施。

【人材育成・定着】

- 職員の効率的な働きと質の向上を目指し、休憩の取り方や超過勤務についての話し合いを持ち職員への意識付けをした。
- 療育の担当制やクラスを解体したグループ療育を実施し、職員が療育を実施しながら、相互に質の向上が図れるようにした。経験が少ない職員が多く、それぞれが意見を出し合い、考えていく良い機会となった。
- 事業所内研修を定期的に開催し、職員の質の向上に努めた。

平成31年度 放課後等デイサービス「のびっこくらぶ」・「えーる」

事 業 報 告

今年度も、発達年齢に応じた支援の充実に重点をおき、それぞれの事業所で、子どもたちが楽しくのびのびと過ごせるように、安全面にも配慮しながら、療育支援・余暇支援に取り組んだ。また、子どもたち一人一人の特性を理解し、様々な経験の機会を提供了。

【療育支援・余暇支援】

- ◆障がい特性に応じた個別支援、年齢に応じた活動や交友関係構築の支援を行った。

「のびっこくらぶ」

○子どもたちが意欲的に活動に取り組むことができるよう環境を整え、視覚支援を行うことなどに配慮した。課題等にも落ち着いて取り組むことができるようになった。

○からふる内の教具や遊具を有効的に活用して療育を提供した。

「えーる」

○仲間意識が強くなり、友だち同士で励まし合ったり、助け合ったりしながら活動を楽しむ姿が増えてきた。自分たちで考えたり、話し合ったりする場面を増やしていくことで、活動に対する意欲に変化が見られるようになった。

○卒業後を見据え、お仕事活動を取り入れるなど目的をもって積極的に取り組めるように配慮を行った。

○パン教室や合唱の外部講師を依頼し、活動内容の幅を広げ余暇活動の充実を図った。

- ◆地域の社会資源を活用する機会を増やし、その中で様々な体験ができるよう計画を作成し支援を行った。

【関係機関との連携】

- ◆萩総合支援学校や市内の小・中学校や関係機関と定期的に情報交換会を行う等、連携の強化を図り支援の充実に努めた。

- ◆他事業所や相談支援事業所と連携を図り子どもたちに必要なサービスが提供できるように努めた。

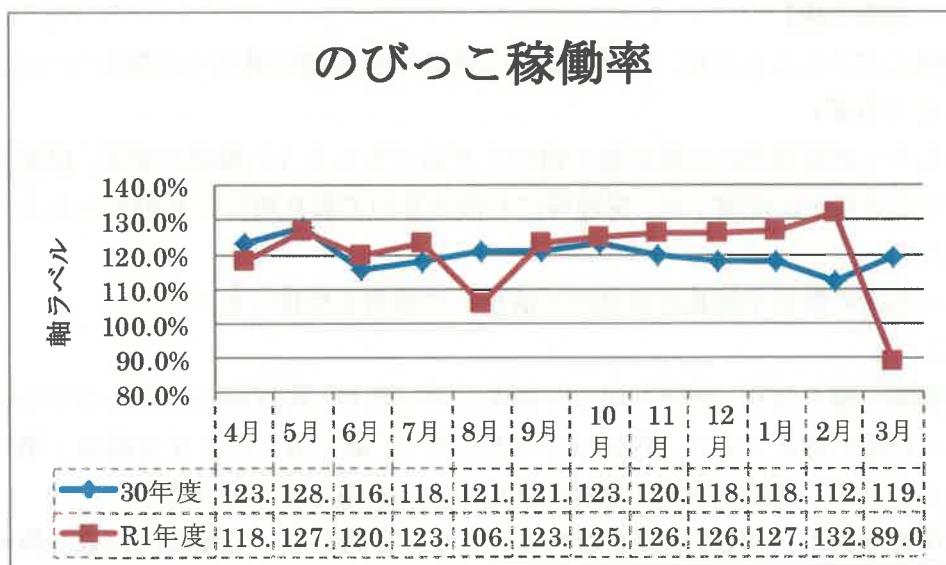
【自己研鑽】

- ◆各種研修会に参加し、自己研鑽に努めた。

- ◆萩市長門市の放課後等デイサービス事業所（きらり、ドリームキッズ）の見学と情報交換を行った。

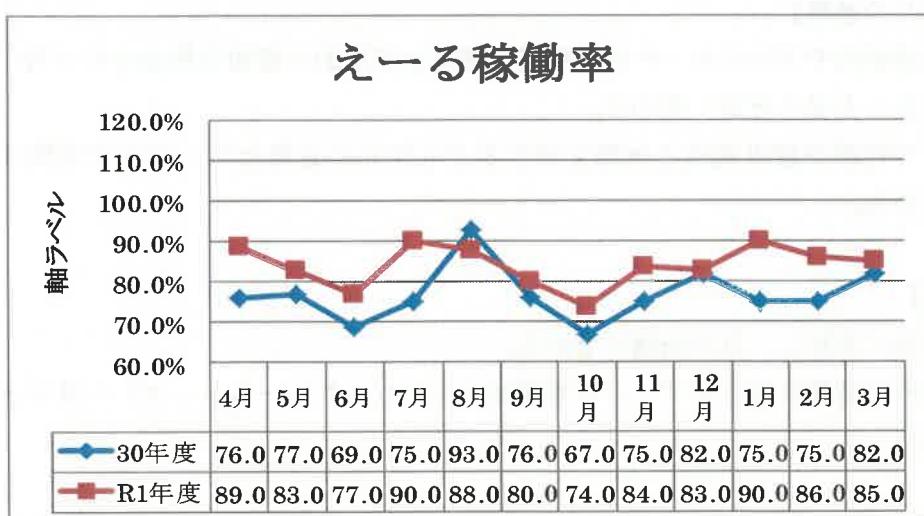
★のびっこくらぶ 定員：10名/日

- *登録者 42名(H31.3)→44名(H31.4)→48名(R1.10)→46名(R2.3)→※49名(R2.4)
- *新規契約者が増加傾向にあります。毎月利用調整をせざるを得ない状況で各々の利用希望に添うことが難しい。
- *稼働率の年平均は120%で平成30年度より±0。3月度に新型コロナ感染症による影響で89%まで利用率が落ちた。
- *受け入れ学校数が1日最大8校で、お迎え時は複数学校を1便で行くなど工夫を要し、その間の支援員不足が課題。車両は、軽自動車1台と車イス対応車1台が増便となった。
- *指標該当区分は（2）で前年度と報酬単価は変わらない。



★えーる 定員：10名/日

- *登録者23名(H31.3)→23名(H31.4)→27名(R1.10)→26名(R2.3)→※22名(R2.4)
- *新規利用者の増加や休日開所に努め、平均利用率はH29年度69.3%→H30年度76.5%→R1年度84%と增加了。
- *3月度の新型コロナ感染症による影響は、欠席利用者も少なく微減となった。
- *指標該当区分が、（1）報酬単価報酬単価は変わらない。



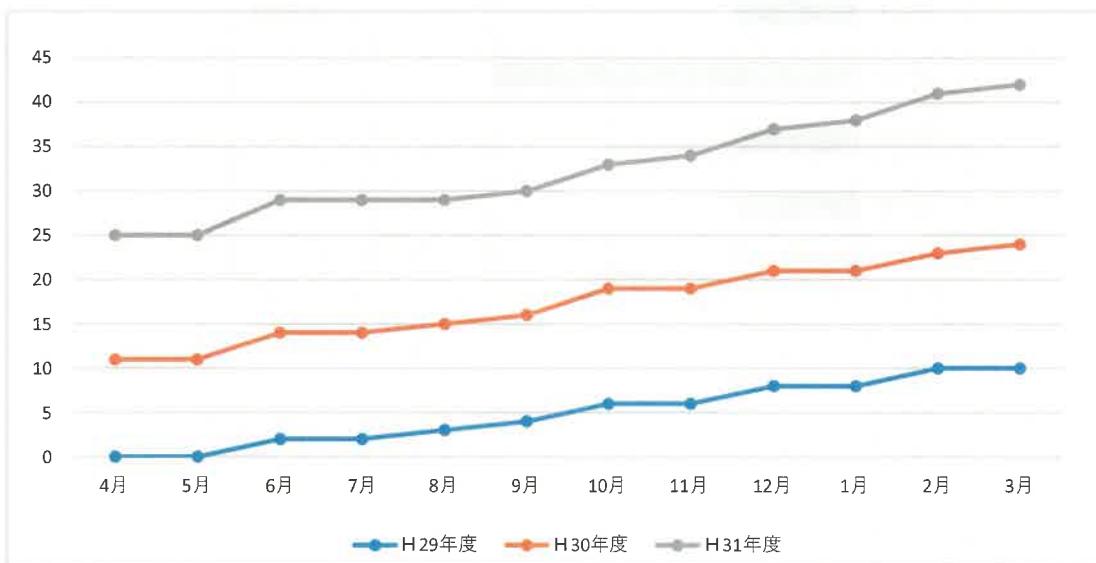
平成31年度 ヘルパーステーションみらい 事業報告

ヘルパーステーションみらい

表1

利用者数

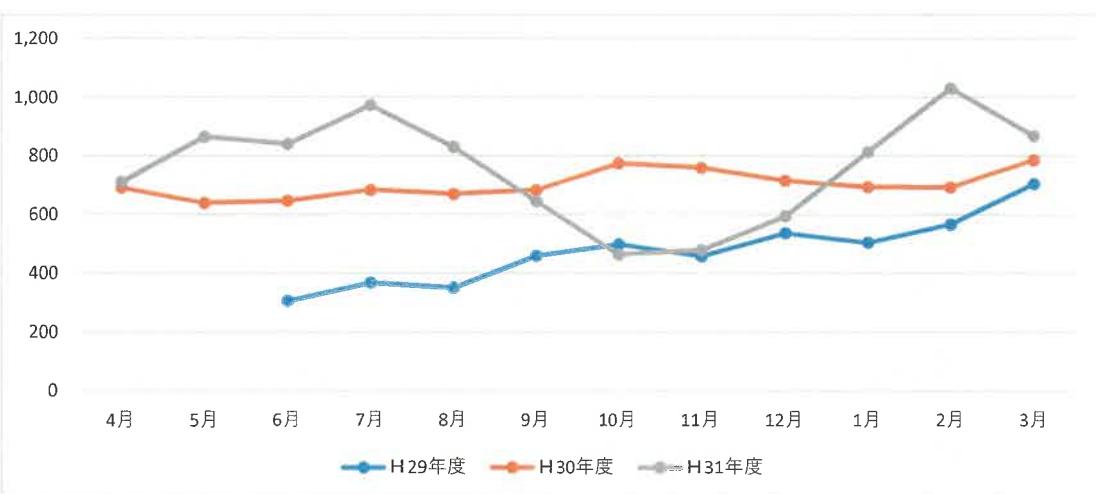
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29年度			2	2	3	4	6	6	8	8	10	10	59
H30年度	11	11	12	12	12	12	13	13	13	13	13	14	149
H31年度	14	14	15	15	14	14	14	15	16	17	18	18	184



報酬比較

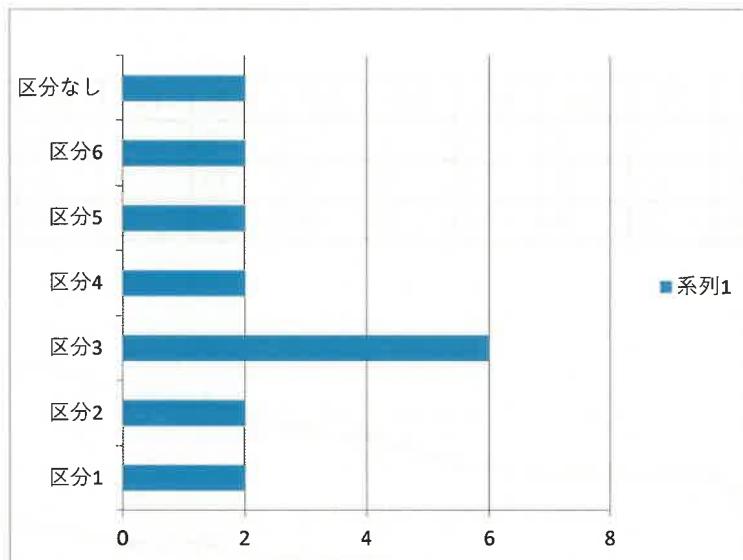
(単位: 千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29年度			307	369	352	460	499	458	537	505	567	705	4,759
H30年度	691	639	647	684	670	683	774	759	716	694	693	786	8,436
H31年度	711	864	841	973	830	645	464	479	595	814	1,030	868	9,114



H.31年度 3月現在の障害区分別人数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし
2	2	6	2	2	2	2



平成31年度 萩市障害者生活支援センター ほっとすペーす

事業報告書

➤ 相談支援

○相談件数： 延べ6, 354件

(内訳) 電話：2911 訪問：2273 来所：903 FAX：3 メール：87 ピア相談：0
その他：177

○相談者数： 延べ6, 354名

(内訳) 本人：1842 家族：1674 学校：72 事業所：1355 保育園：72 幼稚園：21
関係機関：1296 その他：22

➤ 萩市基幹相談支援センター機能及び萩市委託相談支援事業

157名（障害者108名 障害児49名）

➤ 指定特定相談支援事業（障害者）及び指定障害児相談支援事業

<サービス等利用計画作成対象数>

	令和元年	平成30年	平成29年
指定特定相談支援事業	237名	236名	246名
指定障害児相談支援事業	163名	174名	200名
合 計	400名	410名	446名

<サービス等利用計画作成対象数障害別内訳>

*手帳は重複あり

	身体	知的	精神	発達	合 計
指定特定相談支援事業	41名	151名	67名		259名
指定障害児相談支援事業	14名	43名	1名	115名	173名
合 計	55名	194名	68名	115名	432名

➤ 指定一般相談支援事業

地域移行・定着支援 0名

・今年度より萩市の基幹相談支援センターとして事業を開始し、萩地域における相談支援の中核的な役割として総合的・専門的な相談支援を担いました。併せて地域の相談支援体制強化の取り組みとして、相談支援従事者連絡会議を開催しました。

- ・7月より萩市総合福祉センター内に事務所を移転しました。来所を含め全体的に相談件数が増加しています。

➤ 意思疎通支援事業

○萩市手話通訳者設置事業

- ・相談件数：1221件（派遣に関わる調整も含む）
- ・専任者通訳： 70件

○意思疎通支援者派遣事業

- ・手話通訳派遣：214件（延241名）
- ・要約筆記派遣： 11件（延44名）

○意思疎通支援者養成事業

- ・手話奉仕員養成講座開催：令和元年5月～令和2年2月
(第2木曜日・第4土曜日の29日間 全80時間)
受講者18名（うち修了者5名、前年度受講生修了者3名）
*長門市（2名）阿武町（1名）からの受講生の受け入れを行いました。

➤ 他機関の会議等へ出席

○萩市自立支援協議会 定例会	年1回	*新規
○萩市自立支援協議会専門部会（相談・就労・子ども）	月1回（10月～）	*新規
○萩圏域関係機関連絡調整会議	年2回	
○萩市子ども・若者総合サポート会議・研修会	年2回	
○障がい者就業支援関係機関連絡会	年1回	
○萩市総合福祉センター運営会議	年5回	*新規

➤ 職員業務研修（相談援助技術に係る研修、障がい全領域に係る専門研修）

○主な研修派遣

- ・相談支援従事者初任者研修（4日間） 1名
- ・相談支援従事者専門コース別研修（障害児支援） 1名
- ・相談支援従事者専門コース別研修（地域移行・定着） 1名
- ・相談支援従事者現任研修（3日間） 1名
- ・相談支援従事者専門コース（スーパーバイザー・3日間） 1名
- ・平成31年度 精神保健福祉関係者 基礎研修（2日間） 1名
- ・令和元年度 医療的ケア児等支援者養成研修
　　・コーディネーター養成研修（4日間） 1名

・医療観察制度処遇協力者セミナー	1名
・令和元年度山口県障害者虐待防止・虐待防止マネージャー研修	1名
・みんなの支援フォーラム IN 萩 EGF からの実践報告と検証	1名
・山口県地域生活支援事業（意思疎通支援）に係る コーディネーター研修（2回）	1名
・萩長門阿武圏域 成年後見制度利用促進学習会	5名
・長門市相談支援事業所勉強会	3名
・法廷傍聴研修（山口地方裁判所）	1名
・第1回障害者一般就労移行チャレンジ事業研修会	1名
・ソーシャルワーク研修会（2日間）	1名
・失語症向け意思疎通支援者養成研修	1名
・山口県手話通訳問題研究会設置通訳者研修	1名
・罪に問われた高齢者・障害者の刑事弁護における 司法と福祉の連携のための令和元年度四会合同研	1名
・NICU 等入院児移行支援研修	1名
・一般就労チャレンジ事業研修	2名
・山口県知的障害者福祉協会生産活動就労支援部会研修会	1名

平成31年度 萩市障害者支援施設さんみ苑 事業報告

「安心と信頼のつながりを」の理念のもと、さんみ苑に関わっているすべての人が笑顔で楽しく幸せを感じができるような支援を目指し、以下の取り組みを実践しました。

1. 障がい特性に応じたユニット支援の実施・運営強化

- ・平成31年度も障がい特性に応じた5つのユニットでの支援体制を継続し、必要な支援を提供しました。

平成31年度実施したユニットでの外出活動 延べ 31回(月平均2.6回)

平成31年度実施したユニットでの個別支援会議 延べ 60回(月平均5回)

2. 情報共有に関するシステム・ツールの活用

- ・情報共有が困難な交替勤務下で、職員各自が同一の情報を持ちながら支援を実施することを目的にラインワークスの運用を行いました。
- ・職員数の不足や経験不足による不適切な対応や、当日勤務者が、その場で必要な情報のやり取りができることを目的にインカムを導入し、運用を行いました。
- ・防犯や事故防止を目的とし、各居住棟廊下、玄関周辺、ショートステイ棟廊下に見守りカメラ(計5台)を配備しました。

3. 職員研修に関するシステムの活用

- ・職員が自分のペースで必要な知識を学ぶことのできる環境づくりを目的とし、オンライン研修システムサポートズカレッジの使用を開始しました。

4. 各事業について

(1) 施設入所支援事業(定員30名)

- ・生活環境の見直しを実施し、女性棟 5床、男性棟 1床、ショートステイ棟 5床をフローリング化、男女脱衣室の段差解消、男女居住棟トイレ1基を洋式化、エアコン設備の改修を行いました。
- ・各専門機関と連携を行い、高齢期を迎えた1名が特別養護老人ホームへ移行されました。
- ・入院・手術対応が必要な方に関しては嘱託医からの紹介を経て、必要な医療サービスを受けることができました。また、協力医療機関として村上歯科医院長 村上康子医師と契約を行い、検診、保護者会での研修を実施しました。

(2) 生活介護事業(定員50名)

- ・入所利用者の日中活動先の分離について、ご本人の意向を基に各関係機関と連携を図りながら対応しました。1名が高齢者 デイサービスの利用を開始されました。また、数名の方が市内の事業所へ見学もしくは体験実習を行いました。
- ・これまで利用されていた方が、経口での栄養摂取が困難となった為、在宅医や各専門機関との連携を行い、施設内看護師による経管栄養の実施を開始しました。

(3) 短期入所事業(定員6名)・日中一時支援事業(定員2名)

- ・短期入所、日中一時支援事業ともに地域ニーズの解消に向けた取り組みを実施しました。

平成31年度 さんみ苑グループホーム 共同生活援助 事業報告

理念:地域の中で自分らしく暮らす

○入居されている人それぞれが、充実した生活を送るために、サービス計画を作成し、居住支援を開きました。個々の自立に向けたサービス提供に加えて、介護要素に配慮したサポート体制の構築に努めました。

事業の実施にあたっては、本人、家族、関係機関との連携を図り、総合的なサービス提供を行いました。

【重点事業方針】

- ・「食事作り」:びわ・ほたるでの、土、日曜日の調理実習(昼食作り)を通して「食」に関心を持ち、「調理技術」も学べるよう支援します。家庭的な雰囲気を提供しました。
- ・「金銭管理」:自分の収入と収出を知り、計画的に使えるよう、また働く意欲につながる支援しました。
- ・「健康管理」:自分の健康に関心をもち健康な生活が送れるよう支援しました。
- ・「地域交流」:ホームでの交流会のイベントを開催し、ホームや利用者を知って頂く機会とする積極的取り組みを行いました。

通院支援状況一覧

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
延通院支援回数	38	25	33	29	54	51	230
利用者数	14	12名	16	12	15	19	
入院者数	0	0	0	0	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延通院支援回数	27	20	20	21	19	20	357
利用者数	14	14	10	19	8	10	
入院者数	0	0	0	0	0	0	

【防災対策】 はいつびわ・ほたるは、「土砂災害特別警戒区域」の指定を受けおり、さんみ苑と合同で「土砂災害避難訓練」を行いました。また各ホームで、地震火災避難訓練、火災夜間訓練を行いました。

【職員研修】 県や法人主催の研修会(虐待研修等)に参加し、職員の質の向上に努めました。

定員12名 はいつ・びわ 6 人 はいつ・ほた る6人		R元年度	R元年度	R元年度	障害平均区分		
		開所日数(日)	のべ人数(人)	利用率	障害区分	女性	男性
	4月	30	314	95%	非該当		
	5月	31	320	94%	区分2	2	1
	6月	30	322	98%	区分3	1	1
	7月	31	334	98%	区分4	2	4
	8月	31	318	93%	平均区分	3	3.5
	9月	30	319	97%			
	10月	31	335	98%			
	11月	30	321	97%			
	12月	31	326	96%			
	1月	31	324	95%			
	2月	29	311	97%			
	3月	31	330	97%			
	計		183	1947	97%		
平均利用者数							
平均障害程度区分							

平成31年度 ひじわらグループホーム 共同生活援助 事業報告

理念:地域の中で自分らしく暮らす

○入居されている人それぞれが、充実した生活を送るために、サービス計画を作成し、居住支援を展開しました。個々の自立に向けたサービス提供に加えて、介護要素に配慮したサポート体制の構築に努めました。

事業の実施にあたっては、本人、家族、関係機関との連携を図り、総合的なサービス提供を行いました。

【重点事業方針】

- ・「食事作り」: 支援を通して「食」に関心を持ち、「調理技術」も学べるよう支援します。家庭的な雰囲気を提供しました。
- ・「金銭管理」: 自分の収入と支出を知り、計画的に使えるよう、また働く意欲につながる支援しました。
- ・「健康管理」: 自分の健康に関心をもち健康な生活が送れるよう支援します。
- ・「地域交流」: ホームでの交流会のイベントを開催し、ホームや利用者を知って頂く機会とする積極的取り組みを行いました。
- ・「安全対策」: 職員指導や「防災訓練」に取り組みました。

通院支援状況一覧

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延通院支援回数	9	11	16	12	15	12	75
利用者数	5	5	8	7	9	10	
入院者数	0	0	0	0	0	0	

定員12名 ひじわらほーむ 4人 第2ひじわらほー む 6人 むたがはらほー む 4人		R元年度	R元年度	R元年度	障害平均区分			
		開所日数(日)	のべ人数(人)	利用率	障害区分	ひじわら	第2ひじわら	むたがはら
4月		30	409	97%	非該当	3	1	
5月		31	424	98%	区分2	2		3
6月		30	417	99%	区分3	1	3	
7月		31	430	99%	平均区分	2.3	1.5	1.5
8月		31	405	93%				
9月		30	410	98%				
10月		31	429	99%				
11月		30	416	99%				
12月		31	423	97%				
1月		31	418	96%				
2月		28	376	96%				
3月		31	390	90%				
計		182	2452	96%				
平均利用者数		11.4						
平均障害程度区分		1.6						

平成31年度 萩市デイサービスセンターさんみ苑

事業報告

《 総括 》

平成31年度4月に共生型生活介護の指定を受け、高齢者・障がい者の共生を目指したサービスを展開している。共生型の実績は今のところ1名だが、障がい福祉からの移行の方も積極的に受け入れ、今後も萩市における法人の役割を担いたいと考えている。

平均介護度の低下、認知症や中重度者の割合は減少し、加算の算定も思うようにはできなかつたが、新規利用者の積極的な受け入れと利用率の増加があり、結果的には增收となっている。

デイサービスが、単なる預かりや楽しみの場ではなく、個々の利用者が意欲的に活動ができるよう、自立支援・機能訓練・口腔ケアに着目したサービス・活動を継続して展開することができている。

職員においては、研修に積極的に参加し、学びをどう形にするか、伝える力の向上を目指して、各委員会にて検討・実践することができている。委員会活動を継続することにより、職員一人ひとりの自発性、意欲、提案等が活発に見られ、チームとしての力も着実に向上去んでいると思う。

《 重点方針における取り組みについて 》

1. 利用実人員数と一人に対する利用率の増加、サービス提供地域の拡大、中重度の認知症の方、医療の関わりが必要な方、障がい者の方に十分な配慮ができる体制を整えるよう努めたため、結果的に增收となったと考える。来年度は、認知症加算の算定ができないが、稼働率を上げながらも、個別の関わりと自立支援に取り組みたい。
2. 共生型サービス事業所としての指定を受け、介護保険施設の特色を活かしながら、幅広いサービスの提供を目指すことができた。今後も、地域における法人としての役割を果たせるよう努力する。
3. 職員のスキルアップについては、今年度は、内部研修の充実、外部研修への積極的な参加は達成できたものの、キャリア段位制度の活用が不十分であったため、課題として残っている。委員会活動の中で提案力と実行力が少しずつ身につき、職員一人一人の積極性や責任感の向上にもつながっている。

来年度は資格取得者の増加を目指し、より専門的な介護、サービスが提供できるよう努力していきたい。

4. 感染予防、転倒予防、心身の機能向上に着目した環境整備に努めた。

手洗い場を整備し、手洗い等の衛生管理、口腔ケアを行うことができている。利用者の健康管理にも十分配慮し、早期発見、悪化防止をすることができている。

5. 食事や水分等の提供においては、厨房と連携し、配慮食の勉強会の開催や作って食べる楽しみを味わえるようおやつ作りや誕生日のおやつ等の取り組みを継続して行ったことで、職員の意識が変わり、より良いサービスの提供につながっている。

6. 中重度・認知症の方が不安なく穏やかに過ごせる空間作りに取り組み、認知症実践者研修修了者を中心に個別ケア（DVD鑑賞・座ったままの運動・体操等に取り組み、利用者の表情や行動が変わるなど成果が出ている。

※収入、利用実績前年度比については別紙表 1.2 参照

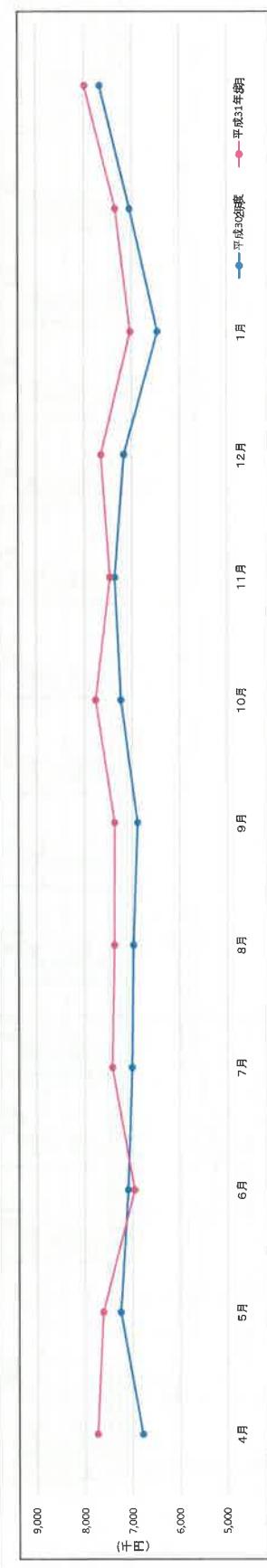
表1：対前年度収入比較（概算利用者負担額）

(単位：千円) ※千円以下切捨て

【平成30年度】												合計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
保険請求額	5,957	6,384	6,271	6,206	6,193	6,101	6,418	6,526	6,355	5,740	6,240	6,809	75,200
一部負担額	683	727	712	705	687	709	729	747	730	653	716	779	8,577
介護保険総額	6,640	7,111	6,983	6,911	6,880	6,810	7,147	7,273	7,085	6,383	6,956	7,588	83,777
萩市介護予防教室	108	105	84	75	72	54	66	63	60	48	63	60	858
利用者負担額	40	41	33	28	29	27	25	22	17	23	22	22	332
介護予防事業総額	148	146	117	103	101	81	91	88	82	65	86	82	1,190

【平成31年度】												合計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
保険請求額	6,876	6,788	6,193	6,590	6,544	6,533	6,397	6,634	6,791	6,217	6,476	7,049	79,588
一部負担・公費	786	771	711	763	768	778	815	776	802	734	774	840	9,348
介護保険総額	7,662	7,559	6,904	7,353	7,312	7,311	7,712	7,410	7,593	6,951	7,250	7,889	88,906
萩市介護予防教室	60	45	45	54	51	48	42	42	42	48	54	51	582
利用者負担額	22	19	16	20	19	18	16	16	16	19	20	19	220
介護不防事業総額	82	64	61	74	70	66	58	58	67	74	70	67	802
共生型生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	22	29	67

【総額】												合計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
平成30年度	6,788	7,257	7,100	7,014	6,981	6,891	7,238	7,361	7,167	6,458	7,042	7,670	84,967
平成31年度	7,744	7,623	6,965	7,427	7,382	7,377	7,770	7,468	7,651	7,034	7,346	7,988	89,776



※1月については年始の休窓(1日～3日)によるものである。11月は同月過疎の調整があるため、多少下回っている。

※年始および、毎日利用者の入院やショートステイ利用日増加、重度者が減り軽度者(総合事業利用者)が増加したことがあり、前年度と比べ収取となった状態であった。その後、今年はインフルエンザ等の蔓延もなく、横ばいの状況にある。

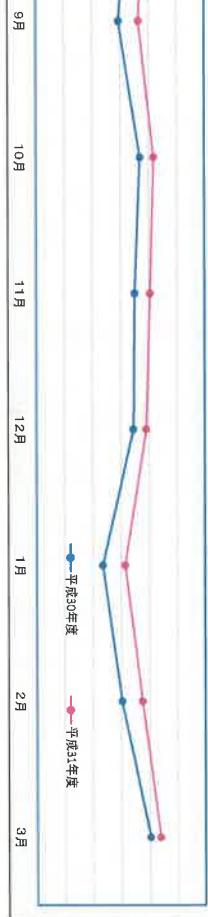
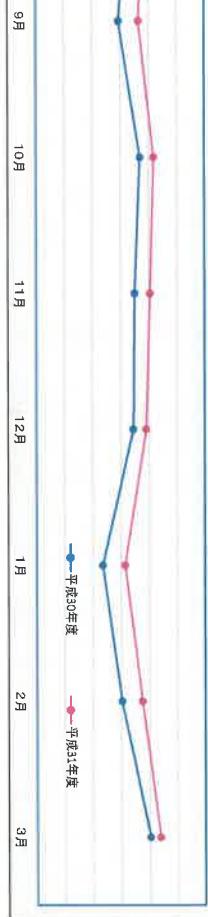
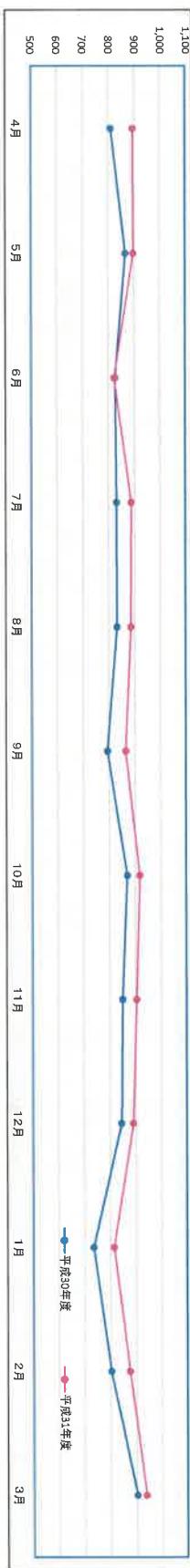
表2：対前年度月別、介護度別利用回数、稼働率比（延べ）

(単位：人)

[平成30年度]	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防教室	37	38	30	26	27	25	23	20	16	21	20	20	306
介護保険事業対象	774	829	797	806	806	769	847	827	825	719	782	884	9,665
要支援1	30	33	31	33	32	27	26	27	18	19	20	19	316
要支援2	41	52	44	48	45	40	47	45	42	42	40	41	527
要介護1	50	56	58	69	72	78	90	91	93	83	83	94	917
要介護2	290	305	309	305	305	301	326	296	321	255	285	345	3,643
要介護3	190	196	195	188	180	176	214	210	219	223	216	246	2,453
要介護4	120	138	116	133	118	103	102	107	94	69	82	80	1,262
要介護5	41	40	44	30	49	43	42	41	27	16	39	45	467
合計	811	867	827	832	833	794	870	850	845	735	803	904	9,971
稼働率(定員50名) (定員50名)	65%	64%	64%	62%	62%	61%	67%	65%	65%	61%	67%	67%	64%
介護保険事業の稼働率 (定員50名)	62%	61%	61%	62%	60%	59%	65%	63%	60%	65%	65%	65%	62%

21

[平成31年度]	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防教室	20	15	16	18	17	16	14	14	14	17	18	17	195
介護保険事業対象	877	883	809	871	870	849	905	891	877	798	858	923	10,411
要支援1	22	26	16	23	24	23	26	23	16	19	20	18	256
要支援2	40	45	46	45	43	38	35	41	41	47	47	45	504
要介護1	108	110	112	121	115	102	105	97	98	90	96	98	1,252
要介護2	322	312	295	311	345	352	399	409	415	373	415	475	4,423
要介護3	251	237	204	234	225	210	206	202	165	150	158	153	2,395
要介護4	28	45	41	47	43	46	48	45	47	42	55	57	544
要介護5	15	12	10	10	12	9	6	1	0	0	0	0	75
合計	897	888	824	889	887	865	919	905	891	815	876	940	10,606
稼働率(定員50名) (定員50名)	72%	67%	63%	68%	66%	69%	68%	70%	69%	65%	73%	72%	65%
介護保険事業の稼働率 (定員50名)	70%	65%	62%	67%	64%	65%	70%	69%	67%	67%	72%	68%	67%



※介護保険延べ利用者に対する入浴サービス利用者は74%であり、本人・家族の希望が多く、必要性が高いと考えている。
※認知症加算については、研修修了者を名追加し、4名配置している。今年度、県への提出(4月～2月実績が20ペーセント)を下回ったため、来年度の算定はできない。
※中重度ケア体制加算については、職員配置は引き続きあるものの、割合が毎年下がっているため、算定できず状況が継続する。
※軽度者（要介護1）の中には、認知症の方、一人暮らしの方が多く、個別の配慮や介助が必要な利用者が増えてきている。介護認定が厳しくなっており、中重度者が激減している。

平成 31 年度 居宅介護支援事業所 事業報告

- ◆ 平成 31・令和元年度の居宅介護支援事業所の事業目標は
「三見・山田地区を重点的に、かつ広域で担当ケースを増やす。」

●収益

後述の【表 1】の通り、少しずつではあるが、要支援・予防給付および、介護給付担当数を増やすことができ、収益も増えている。さんみ苑通所委介護の利用希望者等三見・山田地区の担当数は地道に増やせている。

3人の介護支援専門員の担当数は、多いとは言えない。

しかし、3名配置を維持してもらい、平成 29 年 5 月からの特定事業所加算の継続により、収益を補填している。

●専門職としての定着化

平成 29 年度より、特定事業所加算算定の根拠および事業所のスキルアップの手段として、介護支援専門員実務研修を受け入れることになっている。平成 30 年度は介護支援専門員実務研修受講者の実習生の受け入れは無かったが、平成 31 年度は希望者があった。実習生を受け入れることで、介護支援専門員としての役割を再認識する良い機会になっている。

目の前の担当者の支援と同じように、家族対応に苦慮することが多くなつた。

入院しても在院日数は短期になり、医療依存度の高い方が、介護力に不安がある自宅に戻ることは多い。

訪問看護サービスと連携し、助けてもらっているケースも増加している。

かかりつけ医の固定もままならず、服薬管理も難しく、重複受診、多重服薬の問題も改善に努めてはいるが継続している。

介護支援専門員が、介護サービスとして事業所に委ねられないものを、担うことも多い。多種多様のストレスに屈することなく、体調を崩さず、365 日 24 時間携帯電話を保持している介護支援専門員が、バーンアウトしないため、日々の変化苦悩を口に出し、お互いに励ましあう関係を死守していかなければならない。

併設の通所介護のスタッフや在宅介護支援センター相談員の協力も大きく、感謝している。

●スキルアップ

主任介護支援専門員更新研修受講要件のための研修など、国からの個々の介護支援専門員に義務付けられた研修に加え、多種多様なニーズに対応できるようにと、各種研修に参加し、自己研鑽に努めた。概ね毎月 1 回開催された、西地域包括支援センター主催の事例検討会に加え、多くの居宅介護支援事業所の同志で開催している事例検討会にも参加した。事業所内では、概ね週一回の介護支援専門員の話し合いで、個々の抱えている状況を共有し、不安や疑問を少なくし、目の前の利用者に向き合い、対応できるように努めている。

●関連機関との連携

包括支援センター主催の多職種連携会議への参加や、ケアカフェへの参加。自主的な研修参加など福祉関係者との仲間作り、顔見知りの関係作りに努めている。医師にも、本人の状況を直接伝えるなど、ターミナルケア、医療依存度の高い方を支援する際のより多くの方との支援体制の構築、連携に努めた。他市の医療機関に入院された後の退院支援から関わる件数も増えている。

認知機能など判断能力の低下のある方には、権利擁護事業、障がい施策担当者との連携も継続している。

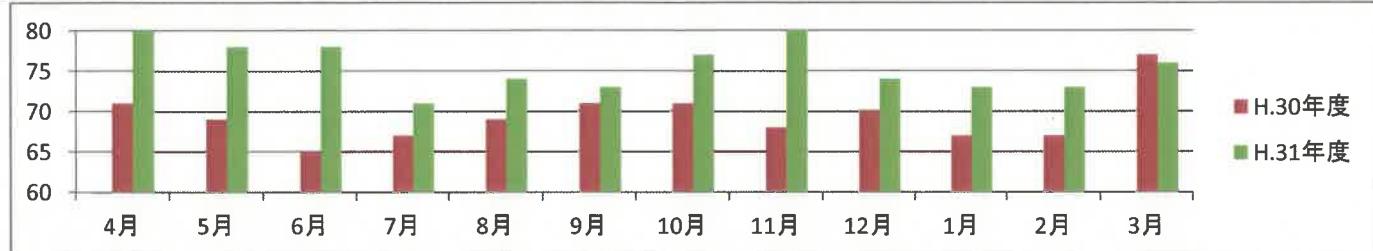
居宅介護支援事業所 平成 31年度

表1

対前年度要介護利用者数比較

※要支援含ます

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.30年度	71	69	65	67	69	71	71	68	70	67	67	77	832
H.31年度	83	78	78	71	74	73	77	81	74	73	73	76	881



対前年度比介護報酬比較

(単位：千円)

※予防給付含ます

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.30年度	1,055	1,018	959	996	1,029	1,066	1,045	1,014	1,051	995	984	1,161	12,369
H.31年度	1,176	1,236	1,149	1,042	1,087	1,123	1,147	1,195	1,099	1,084	1,077	1,113	13,528

過去二年の3月現在の介護度別人数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
H.29年度	1	2	27	21	11	4	3
H.30年度	4	10	33	24	9	7	4
H.31年度	4	11	44	15	8	7	2

対前年度比初回加算対象件数 (要介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.30年度	6	1	2	3	5	3	3	4	4	3	1	12	47
H.31年度	4	0	2	1	3	2	6	3	0	1	4	3	29

対前年度比初回加算対象件数 (要支援：予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.30年度	1	0	5	2	1	2	1	2	0	0	0	0	14
H.31年度	0	0	1	0	0	1	1	0	2	0	0	0	5

対前年度比介護報酬比較 (要支援：予防給付) 報酬額単位円 (件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.30年度	18480(4)	15480(4)	49830(9)	48570(12)	49440(12)	60180(14)	61050(15)	68140(17)	58050(15)	58050(15)	54180(14)	54180(14)	537,580
H.31年度	54180(14)	54180(14)	57180(14)	50310(13)	42570(11)	49440(12)	49548(12)	46548(12)	60306(14)	62064(16)	62064(16)	58185(15)	646,575

平成31年度 萩市在宅介護支援センターさんみ苑 事業報告

○ 相談実績累計

	相談形態別累計							その他	夜間	台帳登録者数
	電話	来所	訪問	FAX	会議	その他	計			
H30	131	8	340	3	16	261	759	163	9	4
H31										

○ 相談内容累計

配食	生活支援・予防事業										介護保険サービス		医療		認知									
	外出支援	寝具類洗濯	ヘルプサービス	ヘルプサポートホーム	訪問理美容	介護予防・特定	デイサービス	生活支援	ショートステイ	緊急通報装置	家族介護者支援	サービス	在宅サービス	施設サービス	その他	入院	退院	その他	本人	家族・親族	関係機関	その他		
H30	134	0	0	0	8	4	0	0	191	27	17	12	0	2	8	5	3	3	2	0	0	0		
実人数	36	0	0	0	5	4	0	0	101	15	11	10	0	2	5	5	3	3	2	0	0	0		
H31																								
実人数																								
精神				家族・親族関係			虐待			成年後見			その他			合計								
精神疾患	アルコール依存	閉じこもり	その他	家族間の親族トラブル親	地域との苦情	その他	高齢者	障害者	一般	その他	市長申し立て	高齢者	障害者	その他	権利擁護	実態把握	その他							
H30	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	136	156	711				
実人数	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119	104	428				
H31																								
実人数																								

○ 対応実績累計

	相談	情報提供	連絡調整	家庭訪問	取次斡旋	ケース検討	申請代行	会議	研修	苦情	その他	合計	サービス適用実人員	サービス開始人数
H30	188	168	129	292	0	1	74	17	0	1	365	1235	508	74
H31														

○ 実態把握加算の実績

	実施月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
H30	19	38	21	16	35	30	38	47	27	26	22	21	340
H31													

○ 求めている支援類型

	ケアマネジメント	社会資源の紹介	対人援助	制度説明確認	研修学習	個人の悩み事	同行訪問	その他	合計
H30	6	11	301	193	0	105	6	165	787
H31									

○ 地域活動

	地域サロン	体力測定	地域生活体制整備事業	徘徊見守りネットワーク会議	地域行事
H30	45	4	11	0	3
H31					

総評：民生委員はじめ地域、家族からの相談により、萩市西地域包括支援センター等と、同行訪問し、在介相談員として相談対応・実態把握・調整に努めた。

その結果、実態把握件数は、昨年度より大幅に増えている。

台帳登録件数として計上している、新規掘り起こし件数は横ばいであるため、新年度はそこに力を注いでいくようにしていく。

地域活動には引き続き参加する。また在介としてのスキルアップに努めていく。

平成31年度 なないろ（障害福祉サービス事業所） 事業報告

重点事業方針についての取組結果（総括）

事業収入に関しては、若干下がっているものの、大きな変動はなかった。しかし、今後も年度毎に見直しを行う必要があり、年度によって収入が変動することを予測しながら、事業運営や職員配置を行う必要がある。

契約者数が増加し、1日に60名の定員を超える状況になったため、サービス管理責任者を2名以上配置する状況になった。

また、生活介護事業の希望者が増えている傾向があることから、次年度の定員を生活介護22名、就労継続B型を22名とし、全体は60名定員として運営を行うこととした。

就労継続支援A型事業

見学希望者が多くあった。その中で次年度より2名の新規利用者が入る予定である。10月の消費税の増税に伴い、喫茶店のお客、配食弁当とともに低迷している状況にある。そこで、萩ビズを利用して、喫茶店の增收のための企画案等を相談しながら、喫茶店の安定した収入や增收につなげたいと考えている。今年度行った企画としては、配食弁当のエリア内の企業等への広報、注文いただいている場所へのアンケートの実施、トップの工夫等である。しかし、新型コロナウイルスの影響で、外出控えがあったためか、年末に近づき、喫茶の来店客が減少したために增收にはいたらなかった。

また、消費税増税の際の軽減税率等でレジが非対応だったため中止していたテイクアウトを助成で購入したトップレジを取り入れ、再開し、運営を安定して行えるように努めたい。



トップレジを導入するためにA型職員及びスタッフで練習をしている。

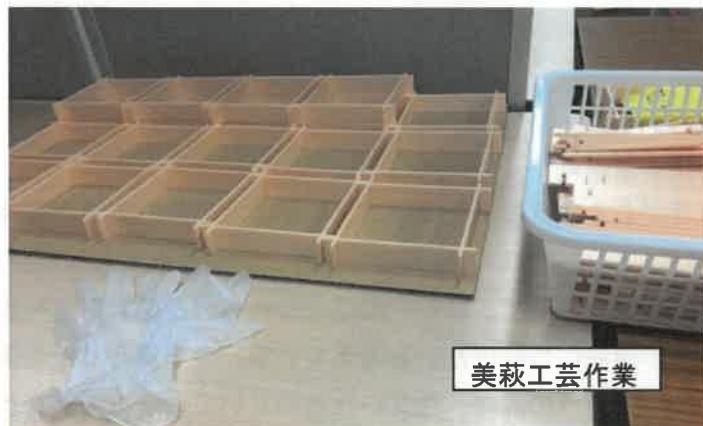
就労継続支援 B 型事業

施設外就労先の見直し等もあったが、美萩工芸からの室内作業をいただき、若干の工賃向上ができた。利用者 1 名の一般就労に向けて支援を行ったが、定着が難しい状況となつた。しかし、その後に再度就労に向けて努力され、一般就労されたという報告を受けている。

高齢化もあり、室内作業を希望される利用者や見学者が増えている現状があるが、現在の状況としては、室内作業が少ないため、室内作業だけでの受け入れは難しい状況にある。

また、介護保険事業への移行をしない場合、永年の利用になる方も多く、B 型で働きたい若年層の利用を受け入れることができず、利用者と就労内容のマッチング等が課題になってき

ている。



就労移行支援事業

利用者 1 名の一般就労、1 名の入院退所となった。昨年度に引き続いて就業経験のない利用者が、就労継続支援 B 型事業を利用する際に必要となる就労アセスメント希望者の利用が 4 名あった。就労アセスメントが例年よりも増えている現状は、長門市にあつた就労移行支援事業がなくなり、長門市の方の利用が増えているためである。

就労移行支援で、家庭へ引きこもっていた方の希望や利用が増加しており、就労をする意欲が弱く、就労につながらないケースが多い。一般就労の就職定着率によって基本単価が決まる仕組みがある現状としては厳しい状況にある。また、職員配置基準上も 2 名の専従常勤を含め 3 名の配置のため、就労移行支援の運営自体も厳しくなってきていく。

就労定着支援事業

利用者 1 名の定着が難しく、年度途中から就労定着支援の利用者がいない現状である。

福祉サービスから一般就労をされる際に定着を目指して利用していただくものだが、サービス提供実施地域で根付いていない状況にある。一般就労自体が難しい地域ではあるが、相談事業所等や地域の福祉サービス事業所への利用の必要性を理解していただくための、説明会等を開いていく予定にしている。

生活介護事業

20名の定員に対して利用率が110%台で推移しており、総合支援学校の卒業生の受け入れ等が難しい状況となっている。また、平均障害程度区分が上がり、個別対応の必要なケース等も増えている現状もあり、次年度は定員を増やすことで、利用できる枠を確保していくこととした。

また、押し花やプリザーブドフラワー（ハーバリウム）、野菜市など保護者のご協力により、様々な豊かな活動が組めている。販売等で地域の方とのつながりや利用者の工賃などとなり、利用者されている方の充実と地域での居場所として、なないろを支えていただいた。

日中一時支援事業

なないろの利用者が3名とさんみ苑の利用者が1名、継続的に利用されている。その他は、緊急の対応が時々入っている状況である。今後も、福祉サービス事業の時間外等の受け入れなど、現状の中で継続していく方向性である。

ふたば園障害者就業・生活支援センター ほっとわーく
令和元年度 事業報告

➤ 総括

センター事業開始から 11 年目となった令和元年度も昨年に続き、精神障害や発達障害の方との繋がりが多くありました。また、難病・その他の方の支援もあり、関係機関との連携回数も年々多くなっています。就労支援の中では、特に精神面での不安定な方の支援は相変わらずで定着の難しさを痛感します。

また、新規の登録者では第 3 四半期の登録者数が 3 か月間で 14 名と近年にない数値となった。

近年の新規登録者の登録が減少傾向にある中で、障害の有る方への就労面、生活面での関わりの重要性を特に痛感した。

活動では、元年度新たに求職者に対する事業(ピアサポート活動)も追加され、実施した。

➤ 障害者に対する相談・支援

○支援対象障害者数 192 人

○相談支援件数 2,810 件

○就職件数 19 件

➤ 事業主に対する助言

○支援対象事業所数 94 事業所

○相談支援件数 700 件

職場実習および障害者委託訓練等のあっせん

○あっせん件数 25 件

➤ 雇用安定事業

○職場定着促進のための在職者交流活動の実施

	開催日	参加人数	実施内容	実施場所
第 1 回	令和元年 6 月 23 日	8 名	余暇活動を楽しくすごす為には(萩)	萩市
第 2 回	令和元年 8 月 18 日	9 名	余暇活動を楽しくすごす為には(長門)	長門市
第 3 回	令和元年 11 月 16 日	13 名	職場見学	下関市
第 4 回	令和 2 年 2 月 16 日	20 名	元年度を振り返り、来年度の抱負を語ろう	萩市

	開催日	参加人数	実施内容	実施場所
第1回	令和元年 5月 29日	5名	在職者からのアドバイス(萩)	萩市
第2回	令和元年 8月 7日	4名	在職者からのアドバイス(長門)	長門市
第3回	令和元年 10月 2日	4名	在職者からのアドバイス(萩)	萩市
第4回	令和元年 11月 27日	3名	在職者からのアドバイス(長門)	長門市

○ピアサポート活動の実施(新規)

○関係機関との連絡会議の開催

- ・障がい者就業支援関係機関連絡会 実行委員会

	開催日	参加人数	協議内容
第1回	平成 31年 4月 12日	9名	30年度計画、連絡会案について
第2回	令和元年 8月 23日	11名	連絡会について
第3回	令和元年 12月 6日	12名	次年度計画について

- ・障がい者就業支援関係機関連絡会

	開催日	参加人数	テーマ	開催場所
	令和元年 10月 31日	46名	グループ討議	萩市民館小ホール

※連絡会議を通じて担当者と顔の見える関係作りができ、対象者支援の際に必要な情報提供や機関連携がスムーズに出来、就労だけで無く生活面での支援にも役立っている。昨年に引き続き、圏域の大学、普通高校にも参加を促し4校参加されグループ討議を行った。

○事業主に対するネットワーク支援活動の実施

- ・障がい者おしごとネットワーク北浦 実行委員会

	開催日	参加人数	協議内容
第1回	令和元年 5月 8日	11名	30年度計画、懇話会についての打ち合わせ
第2回	令和元年 7月 3日	11名	懇話会の反省、見学会の打ち合わせ、次年度日時決定
第3回	令和 2年 2月 5日	11名	見学会の反省、次年度の企画について

・障がい者おしごとネットワーク北浦 研修会

	開催日	参加人数	開催内容
第1回	令和元年6月13日	41名	北浦地域の企業懇話会、意見交換、事例発表 分科会
第2回	令和元年9月12日	34名	萩総合支援学校高等部作業学習見学、座談会

ジョブコーチ支援事業

○支援対象者数：3名

- 広報・啓発活動
 - 季刊誌発行 年3回
 - 法人HP（新着情報）への行事報告掲載 年11回
- 職員業務研修
 - 職業リハビリテーション研究発表会 2名
 - 就業支援基礎講座 1名
 - 主任職場定着支援担当者交流会 1名
 - 中四国ワーカー連絡会 1名
 - ジョブコーチカンファレンス2019 1名

平成31年度 地域活動支援センター ふらっと

事業報告

◎総括

元年度末の段階で、ふらっとの登録者は全体で50名。（うち、強化事業対象者が25名、基礎事業対象者が25名）

利用人数に関して4月は、1日に2.3人（強化事業のみ）だったが、3月は1日に6人（強化事業のみ）の利用状況だった。

利用者のふらっとを利用する目的として、一般就労や福祉サービスにつながる前段階の方や、日中の居場所として利用されている方がおられる。

場所に関しても、定員に対しては狭いので他の部屋の使用も検討しながら利用人数を増やしていく。

利用人数の増加に関しては、関係機関との情報の共有や、宣伝活動、また講師を招いて行うふらっとサークル等を行い、ふらっとの登録に繋げていけるよう活動内容を考え実施している。

今後の事業の運営も短期間での利用率アップを見込む事は難しい様に思え、ある程度の時間はかかると思われる。

◎年間の利用人数

	利用人数（人）	開所日数（日）	平均人数（人） ※強化のみ
H31.4	69（基礎23 強化46）	20	2.3
R1.5	70（基礎21 強化49）	19	2.5
R1.6	78（基礎17 強化61）	20	3.05
R1.7	102（基礎16 強化86）	22	3.9
R1.8	82（基礎14 強化68）	21	3.2
R1.9	92（基礎16 強化76）	19	4
R1.10	124（基礎16 強化108）	21	5.1
R1.11	122（基礎14 強化108）	20	5.4
R1.12	155（基礎12 強化143）	20	7.15
R2.1	156（基礎10 強化146）	19	7.6
R2.2	121（基礎4 強化117）	18	6.5
R2.3	135（基礎9 強化126）	21	6

◎活動時間

平日 10：00～15：00

◎活動内容

【創作的活動・生産活動】

- ・創作活動、壁面作り
- ・ハンドメイド
- ・クッキング
- ・脳トレ
- ・DVD鑑賞
- ・カードゲーム、ボードゲーム

【機能訓練・社会適応訓練】

- ・カラオケ
- ・外食、外出

◎広報・啓発活動

- ・パンフレットや月間予定表を関係機関や福祉サービス事業所等に配布。
- ・法人HP（新着情報）に月間予定表など掲載。
また、活動報告やお知らせなどをふらっとのブログにて掲載。

※<https://ameblo.jp/furatto521/>

